

令和6年度第1回小田原市文化財保存活用地域計画策定に係る懇話会 会議概要

[日時] 令和6年7月19日(金) 14:00～16:00

[会場] 小田原市役所 全員協議会室

[出席]

構成員（敬称略）：

勝山輝男（座長）、丁野朗（副座長）、安藤實英、林美禰子、杉本錦也

勝俣宏一、佐野利美、早野智洋、田村直美、竹縄謙史、和田芳廣、秋澤憲彦

谷口肇（オブザーバー）

（欠席）高久舞、草山昭、山本博文

事務局：大木部長、湯浅課長、長谷川副課長、小林副課長、佐々木副課長、大島主査、
鳥居主査

委託業者（TIT）：池田

[傍聴者] 0名

[会議内容]

1 開会

2 文化部長あいさつ

こんにちは。7月1日付で着任いたしました文化部長の大木と申します。よろしくお願い申し上げます。本日はお忙しいところ、小田原市文化財保存活用地域計画策定に係る懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。この懇話会は文化財保護法に規定される文化財保存活用地域計画の策定にあたり、本市の文化財行政に関わりの深い皆様からご意見をいただき、計画をより良いものにするために昨年から開催させていただいているものでございます。本日は前回の3月に引き続き、地域計画のうち一部の章について案として皆様にお示しし、幅広い知見から忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 構成員自己紹介

事務局：年度が替わり、初めての会議となりますので、一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

（委員自己紹介）

事務局：本日は高久様、草山様、山本様からは欠席のご連絡をいただいております。

4 職員自己紹介

事務局：事務局の自己紹介です。

（事務局自己紹介）

事務局：会議の公開等につきまして、ご説明・確認させていただきます。小田原市情報公開

条例第 24 条の規定では、本市が開催する審議会等の会議については原則として公開することとされております。この規定に基づき、本日の会議は「公開」としており、会議録も公開の対象です。会議の傍聴については参考資料 4 のとおり要領を定めましたので、本要領に沿って取り扱わせていただきます。会議録につきましては、事務局で取りまとめ、後日、皆様に御確認いただいた後に、確定とさせていただきます。本日傍聴人はいらっしゃいません。それでは、以後の進行は座長にお願いいたします。

5 議事

座長：前回から 4 か月位が過ぎて、忘れた部分もあると思う。計画（案）について事務局より説明をお願いしたい。

（1）小田原市文化財保存活用地域計画（案）について

事務局：資料 1 は、前回の懇話会、文化財保護委員会で様々な意見を頂戴した。意見それぞれについて、対応または検討中と記載している。資料 3 は、昨年度のアンケートについて、若い層に区切って傾向が見えるかという意見を受け、再集計した。おおよそのところは変わらないが、観光に資する取組について、若い層の方の関心が高い結果となっている。資料 4 として、文化財リストをつけている。書籍、既往調査、アンケート、ワークショップの情報を一覧にてしている。お気づきの点があれば、後日ご意見を願いたい。現在、計画作成に合わせて精査を行っている。

座長：資料 1、3、4 まで説明いただいた。何かあれば願いたい。

構成員：アンケートの再集計は私から願った。現在のコミュニティ活動に対して、若い世代の参加率はあまり高くないが、参加意欲はある。参加していなくても、思いを持っている方は、計画の第 9 章の重要なリソースになる。追いかけてみると良い。地域で活動されている方が見えているかどうかは非常に大切になる。

事務局：昨年度、上府中でワークショップを開催したが、今年度、それ以外の地域でも準備している。生涯活動として、まちなかで石造物を調べるなどの活動を行っている団体にも、ヒアリングや実際の活動に同行してみたいと思っている。

座長：ガイド協会さんから話があったが、ガイド協会のほか、色々なところで年齢構成が高齢化しており、後継者で悩んでいると思う。50 代までの参加を促せると活性化につながるのではと思う。アンケートの意見から抽出して考えるところはあると思う。資料 4 は指定に至っていないものも含んでいる。指定に至っていないものをどれだけ持っているかは、市町村の文化財行政の力量に関わると思う。

構成員：建造物について、以前に県で古民家調査を実施している。現在残っているものは少ないかもしれないが、可能であれば加えていただきたい。

構成員：文化的景観について、『小田原ふるさとの原風景百選』から抽出されていたが、第 2 期の歴史的風致維持向上計画とのリンクを考えると、歴史的風致と文化的景観がリンクするのではないかと。第 2 期で栢山が歴史的風致に入った。その界限も、入れられそうであれば検討をお願いしたい。動物・植物・地質鉱物のリストで、植物が大半だが、動物や地質鉱物はまだあるのではないかと考えている。資料 5 で箱根外輪山の石があがっ

ているが、石という視点では根府川石や小松石なども追加を検討してもらいたい。

事務局：前回、ジオについてのご指摘があった。国指定になっている以外にも、石の文化として民衆が使う石を採取していたということもあった。指定・登録関わらずの集約ということなので、検討していきたい。

構成員：名勝地について、神奈川県は国指定の自然名勝がない。滝などの自然の景観について指定候補があれば、情報提供はお願いしたい。

座長：文化財保護委員会でも意見が出てくると思うので、それらも反映させていきたい。

事務局：資料2について、第1章・第2章は、資料1に基づいて修正をしている。第3章は前回頭出しまでだったが、書き込みを行った。並行して文言、内容は事務局で精査している。懇話会に示してご意見を頂戴し、ブラッシュアップして計画に盛り込めればと思っている。第3章には、市の歴史文化の特徴として4つ記載している。特徴1として、小田原独自の自然環境、海・山・川があって、そこから得られる恵みと、それがあつたために人が集うというところにつながっているということを記載している。特徴2は交通の結節点として、古くからあらゆる交通が経由している。古くから近代に至るまで、街道、鉄道の往来などの歴史を特徴として記載している。特徴3は、小田原には北条氏がいて、鎌倉時代には有力な武士団があつた。また江戸時代にも小田原は重要な位置づけにあつた。そして近代には様々な政財界の人物も小田原にいた。このような地域性のもとで、時代を通して、日本史上でも重要な役割を担った人物の功績が、市内に現在まで伝わっていることを記載している。特徴4は、農業、漁業、様々な産業にもとづくもの、そういったものが生み出した民俗芸能のほか、民俗芸能ではない市井の生活も地域性、歴史性によって育まれたものが多種多様にあり、特徴としてあらわれているということに記載している。以上のようなものに着眼して特徴としてまとめている。

座長：第1章、第2章はきれいにまとまってきていると思う。おおまかな内容としてよければ良いと思うが、ご意見をお願いしたい。

構成員：序章の計画作成の背景と目的で、マスタープラン、アクションプランとしているが、どこまでがマスタープランで、どこからがアクションプランかと聞かれることもあるので、答えられるような準備が必要と思う。

構成員：文化庁の方針で計画の位置づけをこう表現しているが、文化庁は区分けしていない。歴史文化基本構想を作り、マスタープランはできたがアクションプランがないということで、地域計画ができた。

構成員：3ページの図については、どこから引用したものか。

事務局：オリジナルで作成した図版になる。

構成員：全体的に気を配っていて、周辺環境は全体に関わるという意味と思う。ただこの表現だと無形文化財と産業がくっついているようにも見えるので、もう一工夫が必要ではないかと思う。

座長：オリジナルの図は良いと思うが、周辺環境は列記するなど工夫をお願いしたい。

構成員：他の地域計画でもこのような図だと思うが、「歴史文化」なのか「歴史文化資源」とするか、どういう表現がよいか検討をお願いしたい。

座長：歴史文化の特徴3が小田原城を含めて核になると思うが、そこを人物で括るということとで良いのかと感じた。後半に近代鉄道が出てきて、街道と往来とも重複する。

事務局：並行して書き直しをしているところ。次の会議でお示しする。

構成員：どのくらいのボリュームとなるのか？4つのポイントは良いと思うが、書き足りないのではないかな。

事務局：第1回でも説明したが、ボリュームは増やせるが、アクションプランに比重を置くべきという指導もいただいている。文化庁が例示している30ページにはこだわる必要はないということだが、第3章の分量はこの程度かと思う。

構成員：これでは伝わらないと思う。この数行では語れない。小田原らしさが読み取れない。

事務局：現在、加筆を行っている。この1.5倍くらいの分量にはなる。もう少し具体的なことも入るべきと思っている。重複するのもやむを得ない。あえて人を出したのは、ここに小田原らしさが出ると思った。街道と重なるところもでてくるが、庶民生活の特徴を捉えるのは他の自治体でもできるが、小田原には歴史上の人物が関係していて、大河ドラマにもこうした人物も出てくる。観光的な視点でも、今回の朝ドラの三淵さんも住まわれた。現状ではわかりづらいかもしれないが、チャレンジングに書き足さないといけない。皆春荘、古稀庵なども総理大臣経験者が住んでいた。教科書に出てくるような人が住んでいた。県内でもこれを書ける自治体は少ないと思う。書き足りないというご指摘は良くわかるが、まずは、この4つで妥当なのかどうかを議論いただきたい。

構成員：4つの特徴が織りなす全体像をどうみせるか。1は地政学、その時々々の社会情勢によって浮いたり、沈んだりがあって、その中で重要人物が集まっている。なぜこのような生業がまちに生まれたのか。4つのストーリーは本来重なっている。ぱっとみた時に良くわかるように編集していくとわかりやすいと思う。

事務局：引き続き作業を進める。

構成員：民俗は暮らしの中に根付いている。ブリが1万匹位とれた時代に、大漁祈願の唄があって、それが祭礼でも歌われたというのが特徴的。根府川の鹿島踊も石を運ぶために生まれた。他地域とのつながりも含めて記述できれば小田原の歴史的、地形的な位置も、もっとはっきりするのではと思った。

事務局：第7章の12のテーマを軸にして、第3章の特徴を検討している。作業は第7章から行っており、遡って、第2章にも関係していくと思っている。状況を理解いただきたい。

構成員：早川では、小さい頃、黒曜石が採れた。海老名の友人がガイドをしているが、国分寺跡の記念館があるが、黒曜石の矢じりが出てきて、早川から採れたと書いてあった。第3章に小田原市のものづくりがあるが、歴史は他県に伝承している。小田原のすばらしいものづくりが他の地方に行っただけと思う。そういうことも第3章に盛り込むと良い。

構成員：資料5で、関連文化財群と維持向上すべき歴史的風致とを関連付けているが、東海道と小田原宿は線が結ばれていないが、実際には、①の旧城下町は宿場町を含んでおり、②の旧千度小路周辺は宿場町の話だったりする。板橋も同様。歴史的風致の関連付けも深掘りした所で結びつけて考えていただけると良いと思う。

事務局：ご指摘の点は第3章の本文と併せて見直しを行う。

座長：これらを並べると理解しやすいと思う。構成の仕方などに工夫は必要と思うが、こういうものがあっても良いのでと今言えば追加はできそうなので、これはというものがあれば挙げていただきたい。

構成員：文化財群として、12は多すぎるようにも思う。マップには落としているか？

事務局：まだ行っていない。

構成員：マップに落とすと色々な気づきもあると思う。エリア的なかたまりがあって、地域の方々にしっかり認識してもらうということもあると思う。早めにマップに落としてみて、空間的に捉えていくことも必要と思う。

事務局：災害のテーマや近代別荘など、まとまるようでまとまらない。古代はある程度グループにできるが、近代は人の移動も多くなってなかなか難しいと感じている。

構成員：関連文化財群の数については、横浜市は9個、川崎は6個となっている。

座長：小田原市は要素が多い。関西と関東の境界で、街道も入ってくる。一つのマップではなく、複数のマップにわけるというのも良いと思う。

構成員：⑤中村川流域の文化について、地域の方が案外ご存じない。北条氏まで伝わるストーリーをはっきりさせると良い。砦の数がすごく多い。北条氏が作った古い時代の砦もある。中村川の流域にたくさんあることを地元の方も知らない。小田原に移住してきた方からは、どこにいけばわかるのかという問い合わせがものすごく多い。

構成員：移住されてきて、ガイド協会に入会する人もとても多い。

構成員：文化の担い手が50代で若手というのがショックである。相模民俗学会では、40歳を若手かどうかという議論を行っていた。青年から育ててはどうか。興味を持っている人も多い。発信の仕方を良くすればと思う。機関誌として3月に一度、2千部程まいているが、見てくれている人がどの位いるのか。暖簾に腕押しで、インスタグラムに投稿しても反応がない。どう周知してくのか、これからの問題としてお知恵を出していただき、私たちも吸収してやりたいと思う。

構成員：人材不足は全国で起こっている。若い人が入っていかなければ古典芸能は続かない。京都へ行くと、皆さん、伝統は革新だという。そういう環境をどう作っていくのかを第9章に書いていく。40・50代は現役世代なので、現実的に参加できない20・30代が違うチャンネルでどんどん入ってくる環境を作っていくのもこの計画の役割になる。

構成員：子供から育てていくのが大事になる。

座長：植物の同好会などでは、私はずっと最年少できた。その後の人が入ってきていない。学生時代はいろいろと関わるが、就職して住む地域が変わると来なくなる。若い人が後継者になるとは思わない方が良い。時間がある時に来てくれて、デジタルのところを手伝ったり、そうやっていくと、その人たちの子どもが同じように関わってくれるという、良い循環ができるように思う。

構成員：私たちの育成では、小・中高校、大学生などを対象としていて、中学校で部長だった子のお子さんが高校で入ってきたということもあった。長くやっていると、昔やっていて、留学などしたが、結婚して戻ってきて入って来ることもあった。ブランクがあっ

でも気にせず、いなくなっても気にせず、大きくなったら帰っておいでと伝えている。

構成員：前回も申し上げたが、京都で能楽をやっている友人がいて、半期で2万人以上、9割が海外ということ。英語で日本語の代用をしながら、「おもしろ能楽公演」をやっている。海外の子が入って来ると一緒に行き始める。そういった交流拠点があると、若い人の見方が変わってくる。小田原にもいっぱいあるが、活かされていない。サイクルガイド、アドベンチャーガイドなど、若い人が参加している。

構成員：観光協会ではレンタサイクルを始めた。ポタリングといって、自転車で走りながら、定点でガイドをしたら、非常に若い人が参加した。今年は、海沿いを風祭くらいまで行って戻って来るということをやってみようと思っている

構成員：同じ事柄でも、視点が違うと若い子がどんどん入って来る。

事務局：第4章について、まず目指す将来像としては、懇話会やワークショップなどで出てきたご意見、キーワードなどをもとにして、関連する計画の将来像とも照らし合わせてまとめていきたいと考えている。目指すまちのイメージとして4つをあげた。イメージに基づき、基本的な方向性を設定している。第6章以降で、この方向性の枠組みにもとづいて、課題、方針、措置を整理していく。ご意見などをいただき、精査していきたい。

座長：将来像、基本的な方向性について意見はあるか？

構成員：将来像の文言について、平成29年に策定された博物館の基本構想があるので、参照してもらいたい。序章について、博物館基本構想も保存・活用にリンクしている。改訂なども考えているが、連携していきたいので記載をお願いしたい。

事務局：歴まち計画など、文化財に関わる計画は、それぞれが同じ方向性を向いている必要があるので、調整してまとめていきたい。

構成員：第4章、第5章は、市民がたくさん見るので、活動イメージをコラムなどで良いので載せる必要がある。文章だけだとわからないので、例示して欲しい。生業をいかすということで、生業そのものが観光というものもある。文化推進法の拠点計画などのような活かし方もある。身近なもの、尖ったもの、いろいろあるので、事例として入れて欲しい。

事務局：前回の会議でもPRした方が良いのではないかという指摘があった。今後、ワークショップなども通じて、実際に拝見したい。民俗芸能、教育とも近い活動をされている方もおられる。いろいろな事例を載せたい。

構成員：身近な活動を紹介するということで理解した。

構成員：文化財の保存・活用には、事業の継承が課題だと思っている。建造物も生業もその中で行われている。後継者がいないから建物が維持できないという負の連鎖。そこは商工会議所の役割かと思う。

構成員：先ほどの議論で、若い方は観光に興味があるが、文化財を知らない。若い人に、いかに種をまいておくか、例えば文化財を学ぶということだが、もっと手前の文化財とふれあうきっかけが多いまちの方が良いのではないか。興味がなくても、触れ合って、興味ない人も参加する。今まで、地域の方は直接に文化財には関係ないから活用できなかったものを、直接文化財の活動ではないが、こういうことをやれば子どもが知って誇

りを持つ、小田原城の周辺でイベントがあって、文化財の啓発イベントではないけど、多くの人が集まるイベントで、お堀のことを知るようなこともある。

事務局：文化財を守り、活用につなげていくのは、観光の分野と文化財の分野は近いと思う。

観光協会のイベントでちょうちんまつりでは、子供達が小田原提灯を作って飾って、おまつりでは民俗芸能が演舞される。ぐるっと一周回った良いアクションと思っていた。

成功例の一つと思う。きっかけとなる取組になっている。文言について検討していく。

構成員：この前、UMECOで板橋の散歩の地図はないかと聞いている人がいたが、受付の人がありませんと答えていた。すごく残念。外国人の会があるというの知らない。横の連携はもう少しつくれるか？ガイド協会も案内を作っていて、板橋地区の喫茶店や甘柑荘でも手に入る。そういうことは他にもあるのではないかな？生涯学習課のキャンパスおだわらに下中座が載っていないのは登録していないからか？伝統芸能に下中座が載っていない、載っているのは多古の小田原囃子だけだった。いろいろな方が、一生懸命いろいろなことをやっているのに、掛け違っているところがあるような気がする。観光協会とガイド協会とタッグを組みたいが、どうしたらよいかわからない。曾我物語をやっているのは下中座だけ。近松門左衛門が9曲つくったが、曾我は一人遣いで、一人であれほどやっている人形浄瑠璃はない。伝統を守って浄瑠璃を作ったのは、作曲してくれたのは野沢勝平さん、語ってくれているのは竹本織太夫さん、いろいろな人の協力を得て小田原独自のものをつくった。もっと小田原の顔として使えないか。そういうものが埋もれていると思う

事務局：UMECOはやわらかい機能をもった場所としてつくり、現在もレンタサイクルなどあって観光スポットでもある。小田原市の活動も多いし、パンフレットも非常に多い。

観光客が求めるものは決まっている。公共施設なのでなんとかしたい。

構成員：NHKの朝ドラで甘柑荘が出てきて、それに合わせて板橋宿で回遊しながら歩いていただくということでマップを作った。甘柑荘は、週2日開館して、1日100人くらいの来館者がある。横の連携をとりながら進めていきたい。

構成員：マップはどこに置いているのか？

構成員：駅周辺や板橋などにある。

構成員：いろいろなマップがあるが、地区の回覧でも回したい。早川上水の会の副代表をしている。3年前には上水の下が見えないということで、年に5回、ボランティアで清掃をしている。前に来た時は汚くて底が見えなかったけれども、良くなったと言われた。20日にも草刈りに行く。参加する人も若くないが。

座長：第5章も説明をお願いしたい。

事務局：既往の調査で、足りていない部分と誤植は精査していく。建物に関する県の調査も確認する。現状でどのような取組があるか。民間での取組を載せている。今後も調べていくが、皆さんから情報を寄せて欲しい。

構成員：文化財の“保護”は意味が狭い。“継承”が良いのではないかな。食などの団体はないがどうなっているか。

事務局：事前に配布した資料には入っていなかったが、そういう取組があることも載せる。

事務局：現状で文化財課はこういう団体とのコミットはない。文化財係が民俗芸能などと付き合いがある程度。懇話会に市の各所管から出てきていただいているのもこのためである。行政の内部の話だが、いろいろな団体とコミットできるようにしていきたい。市民学校では、生涯学習課が見つけては団体を入れる作業をしていた。食の団体などは経済寄りで、商工会、観光協会と情報を入れながら作っていく。

構成員：生業というワードがあるが、提灯づくりもボランティアの会がある。欄を作って、生涯学習課に振っていただければと思う。発信の部分で弱いところもあるので努力していきたい。

構成員：民俗で一括りになっているが、一つ一つ団体がやっている。

事務局：本日配布した計画案では追加となっている。

座長：自然環境の報告書が載っていない。調査、植生、植物誌、など関連するものはある。最初に石があったが、ジオパーク関係もリサーチしていただきたい。自然保護団体のグループ、里山管理のグループも地域の文化財と関係してくるので、そのあたりも網を広げて良いと思う。

構成員：課題は次回ということで良いか？承知した。

構成員：文化庁とはいつ相談するのか。

事務局：オンラインで一度説明した。今年度も、一通りできた、11月位に懇話会を経て、計画案をお送りして話をする予定で考えている。

構成員：懇話会で議論しているが、途中で大きく変わると困るので、なるべく早く行った方が良いと思う。

構成員：構成に関して気になったところで、45 ページ、第4章の2の基本的な方向性、必然性がある、わかりやすい。時系列な流れは自然な流れ。一方で、将来イメージの①～④がこの順番になるのかよくわからない。遡ると、第3章の4つの歴史文化の特徴について、①がまずくるのはわかる。そこから人々の暮らしが始まる④が次にきても良いのではないかな。そのなかで交流があって、その中で突出した人物が出てきたという流れの方がよいのではないかな。ストーリー性がある方が、迫力が出てくると思う。

構成員：基本的な方向性で、文化財を知る時には、子どもなどは、遊ぶところから入れると、より知りやすい。触れ合って自然に知るということもあり、文化財の敷居を低くするような、知るにもいろいろなやり方があると思う。

事務局：ここ数年、木育ということで、小田原産の間伐材を使った取組で、赤ちゃんに木のおもちゃをあげる事業を行っている。そういった視点が重要と思う。

構成員：私は文化財を預かっているが、公開は大きな問題となっている。この間、三浦市の団体から、三浦一族の最後の盃があって、県の博物館で展示会があったので、見に行きたいと問合せがあった。来られても困る。私のところは大森一族の菩提寺。北条氏が三浦家をつぶした関係で、すごく寄附をされている。まさか三浦市からくるとはおもっていなかった。話をしてくれといわれても困る。博物館があって展示できれば良いが、対応がすごく大変。現在客殿を建てて、宝物館ができて、収納しようと思っている。市外からバスで来ますということだったが、弱ったものだと思っている。

事務局：文化財課にも総世寺を含めて仏像を見たいという問い合わせがくる。常時公開しているものではないので答えづらい。公開をお考えという話であれば、事前に情報をいただいて、この日に公開があるので、この日に来てくださいということができる。そういったものが増えていけば公開が増えてくると思う。

構成員：以前は3日間やっていた。夜はないので、若い者に頼んだ。総代と交代で行った。

3日やると大変だった。何かできないかと思うが、消極的な意見で申し訳ない。

構成員：三浦の方々が居神神社にお参りする。北条早雲晩年最後の場所と言われている。例祭は神輿がああ階段を上って宮入するがそれで終わりではなくて、宮司らが三浦市の墓所に行ってお参りして例祭を終えるというストーリーになっている。

構成員：10年前に市内の生業の工場、工房を開放するという話があった。最初は狭い所に人が来るので、ルールを作らないとということで、観光協会に入ってもらって、所有者の負担にならないように見てもらう仕組みを作った。本質は同じで、新しい収益につながるようなこともあり得る。

構成員：文化交流、市民交流という意味ではぜひ招きたいが、自分の時間がとれない。

座長：利用しようとなるとそういう話が出てくる。他に何かあれば、事務局にお伝えいただきたい。

（２）その他

事務局：第2回を11月位に開催を予定している。

閉会

事務局：勝山座長ありがとうございました。執筆中のところもあるが、文化財群をどうまとめていくのかは悩ましい。来月の文化財保護委員会を経てまとめていきたい。皆様、お疲れさまでした。これで終了となります。ありがとうございました。

以上